

武蔵野学院大学大学院

プレFDの取り組み



武蔵野学院大学大学院

国際コミュニケーション研究科

2020年3月10日

目 次

はじめに	2
1 プレFDとは	3
2 プレFDの内容とは	5
3 武蔵野学院大学大学院のプレFDの考え方	6
4 プレFDの情報提供	9
おわりに	10

はじめに

武蔵野学院大学大学院では研究者としての院生を育てるべく、院生指導・院生へのFDとして、入学許可後の研究計画書の提出、入学前の研究発表会の参加、入学後はオリエンテーションの中で修士論文・博士論文までの流れ、研究倫理を含めた研究者の心得などを扱ってきた。また、博士前期課程の院生は年1回の学内研究発表、博士後期課程の院生は年2回の学内研究発表を行ってきた。これに加えて博士前期課程・後期課程1年生に対しては年に1度、「論文の書き方」指導＋研究倫理教育を行い、博士前期課程では「研究指導1～4」が必修科目として設定され、その中でも論文の書き方、研究倫理についても取り扱ってきた。

研究指導教員は全員が学部の担当教員が担当していることもあり、院生の学生指導の一環として、博士後期課程の院生が博士前期課程の授業に参加、大学院生が学部生と交流を図りながら、教育体験を積んできた経緯がある。『学士課程教育の構築に向けて（答申）』（2008）の「教員の職能開発」では「大学院に求められる人材養成」が挙げられ、教育を担う者へのキャリア形成支援についても言及（40頁）され、『未来を牽引する大学院教育改革～社会と協働した「知のプロフェッショナル」の育成～（審議のまとめ）』（2015）では博士後期課程の院生の処遇等についても大学院教育の改革の具体方策のなかでも取り上げられている現状である。

今般、大学院設置基準の改正（20190830）に伴う「学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定又は当該機会に関する情報提供の努力義務化」を受け、これまでの本学の内容をまとめ、さらに2020年度よりさらに体制を整備したい。

研究科長

1 プレFDとは

「学校教育法施行規則及び大学院設置基準の一部を改正する省令の施行について（通知）」（元文科高第 380 号・令和元年 9 月 26 日）では「各大学院における、博士後期課程の学生を対象とした、学識を教授するために必要な能力を培うための機会（いわゆる「プレFD」。）として記述している。『平成 27 年度 文部科学省委託調査 大学教員の教育活動・教育能力の評価の在り方に関する調査研究 調査報告書』（株式会社リベルタコンサルティング、2016 年 3 月）で次のように定義されている。

プレ FD (大学教員を目指す大学院生を対象とした授業の実施方法や教材等の作成に関する教育 (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371454_01.pdf) (2020 年 2 月 12 日アクセス) (101 頁)

各大学の捉え方を幾つか紹介しておきたい。京都大学高等教育研究開発推進センターは次のように定義している。

プレ FD とは、これから大学教員（ファカルティ）になろうとする大学院生や OD（オーバードクター）・ポストクのための職能開発の活動のことです。大学教員の仕事には、教育、研究、管理・運営、社会貢献などがありますが、プレ FD では、なかでも教育能力の開発に重きが置かれています。「プレ FD」というのは和製英語で、アメリカでは、Preparing Future Faculty (PFF) と呼ばれています。日本では、2008 年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において「教育研究上の目的に応じて、大学院における大学教員養成機能（プレ FD）の強化を図る」とされたことも手伝って、この数年、プレ FD を実施する大学が増えてきました。

(<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/about/>) (2020 年 2 月 12 日アクセス)

東京大学大学総合教育研究センターでは次のような紹介がある。

東京大学フューチャーファカルティプログラム（大学院生向けプレ FD）

大学教員を目指す大学院生を対象に、特に「大学で教えること」に関するスキルおよび知識の獲得を目指したプログラムを 2013 年度より開講しています。大学院共通授業科目「大学教育開発論」を中心にした半期プログラムにおいて、アクティブラーニング型の学習スタイルを通じて専門領域を超えたネットワーキングを育みながら大学院生が学ぶ環境を提供しています。

(<http://www.he.u-tokyo.ac.jp/activities/fd>)(2020 年 2 月 12 日アクセス)

熊本大学 e ラーニング授業設計支援室ランチョンセミナーの資料では次のような説明がある。

大学教員を志望する大学院生を対象とした大学教員に必要な知識やスキルを身につけさせるた

めの取り組み

(<http://cvs.ield.kumamoto-u.ac.jp/wpk/wp-content/uploads/2014/11/2014-11-07e383a9e383b3e38381e383a7e383b3.pdf>) (2020年2月12日アクセス)

文部科学省の言う「プレFD」は和製英語であり、アメリカでは、**Preparing Future Faculty (PFF)** と呼ばれるものであることがわかる。表現からしても英語の方がその意味を理解しやすい。これまでの定義や解説とみるとおおよそ次のようになる。

これから大学教員となろうとする大学院生（ポスドク含む）の職能開発の活動。特に、教育能力の開発のこと。

大学院生は研究者の一面もあるが、博士後期課程の大学院生は将来の大学教育を担う人材であることを踏まえて行われるのが教育能力開発を目的とするプレFDなのである。

2 プレFDの内容

「プレFD」はこれから大学教員となろうとする大学院生の教育能力の開発であるが、具体的にはどのような内容であろうか。「学校教育法施行規則及び大学院設置基準の一部を改正する省令の施行について（通知）」（元文科高第380号・令和元年9月26日）では次のような例を挙げている。

プレFDとしては、例えば、主体的な学びを促すための学生指導法や教材の作成・活用方法等に関するセミナーや授業の開催、また、教育能力向上のため大学として設計し指導を行う等適切に関与したティーチング・アシスタント（TA）制度等による実践的な教育経験の機会の提供等が想定されること。なお、各大学院において策定した「三つの方針」を踏まえた上で、プレFDを授業として単位認定を伴うかたちで開講することは妨げないこと。

これを整理するとプレFDには3つの型があることがわかる。

大学院授業開講型

大学院授業開講型は大学の授業として開講され、単位化されていることが多い。その講義の中で学生指導法、教材の作成・活用方法等など

課外プログラム型

授業には組み込まれない特別なプログラムにより実際される。学生指導法、教材の作成・活用方法等を扱う特別講義の開講や学部授業での研究授業（事前指導・授業見学・事後指導）などで構成される。期間も2日～5日程度で集中的に行っている事例もある。事前指導のち、授業見学、そのあとにワークショップなどを開始している事例もある。

TF（ティーチング・フェロー）制度型

一般的には大学の授業を担当し奨学金を得ている大学院生、TA（ティーチング・アシスタント）などの教育経験を主として実施されるもの。助手的な内容を行うため、大学教員の実態を最も知ることでできる制度である。

各大学により実施の方法は異なる。

3 武蔵野学院大学大学院のプレFDの考え方

プレFDについてはおおむね3つの型があるが、本学としてプレFDをどのように勧めるかについては、まず大学院生への研究者としてのFDはすでに実施されている。これに加えて、博士後期課程の院生に対して教育能力の開発の研修が実施されることになる。博士後期課程では教育課程の中でこうした教育能力の開発を目的とした授業科目は設定されていないが、「課外プログラム型」により柔軟な姿勢で対応することになる。ではどのようなプレFD実施するのか、それは以下のような内容を中心に進める。

研究指導教員主導のプレFD

- ・プレFD実施の明示

シラバスへの明記 博士後期課程の「研究指導」は単位化されていないが、本学ではシラバスを明示している。のため、研究倫理教育と同様に毎年2～3回程度は研究指導の次回の内外でこれを扱うこととする。シラバスには「プレFDの実施」と明示、内容としては学生指導法、教材の作成・活用方法、教授者として必要なことなどを扱う予定である。また、学部等の授業を調整しながら、授業見学等を実施する予定もある。

- ・学部の授業の活用

研究指導教員は学部の授業も担当していることから、院生の研究分野などに配慮しながら、学部の授業での見学、授業で使用する教材の作成などに関与し、授業の一部でゲストスピーカーとして授業への参加なども予定している。また、研究指導教員が他の科目担当者と連動しながら、授業でのティーチング・アシスタント的な役割も期待されている。特に留学生院生の場合には日本語関係の授業、あるいは学部授業における留学生の日本語サポートなども期待されている。

- ・プレFD研

本学では院生の研究者としてのFDを行っており、特に研究倫理について、論文の書き方、プレゼンテーション実践方法などについて扱っている。これに加えて、論文の書き方では必ず触れる参考文献の紹介などにおいて、教育能力の開発の意味から、専門事項の文献紹介などを学部生に行う際の教材作成の方法などについても取り上げていく。

本学ではすでに教育関係の職業を持ちながら入学する博士後期課程の院生もいることから、すでに教育能力の開発に関する機会のある院生と留学生のようにこうした機会がなかなか得られない院生もいることから、それぞれの状況に対応しながら進められるように柔軟な姿勢で取り組む。教育経験を積む機会としては高等学校での講演や授業、さらには地域での教育活動への参加、これに加えて大学での教育現場への参加などが考えられる。

本学では春入学者は7月上旬、秋入学者は12月に大学院生FDとして論文の書き方指導・研究倫理教育を行っているが、この内容を精査しながらさらにプレFDの内容も扱うようにする。具体的には教材作成の指導等を行う。入学後からの流れを整理すると以下のような内容となる。なお、授業見学などは学部の授業の進行状況によりズレることがある。

博士後期課程大学院生のFD及びプレFD

時期	FD（研究倫理を含む）	プレFD
1年春入学者4月上旬	オリエンテーション時に1年間の予定及び研究倫理の概要	オリエンテーション時に1年間の予定及びプレFDの説明
1年春入学者6月頃		研究指導を通して学生指導法、教材の作成・活用法の取り扱い。場合により授業見学・ゲストスピーカー、事後指導。教授者として必要なこと。
1年春入学者7月上旬	論文の書き方指導&研究倫理	教材の作成・活用法
1年春入学者7月頃	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
1年秋入学者9月中旬	オリエンテーション時に1年間の予定及び研究倫理の概要	オリエンテーション時に1年間の予定及びプレFDの説明
1月秋入学者11月頃		研究指導を通して学生指導法、教材の作成・活用法の取り扱い。場合により授業見学・ゲストスピーカー、事後指導。教授者として必要なこと。
1年秋入学者12月頃	論文の書き方指導及び研究倫理	教材の作成・活用法
1年春入学者2月中旬	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
1年秋入学者2月中旬	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
1年春入学者4月上旬	オリエンテーション時に1年間の予定及び研究倫理の概要	オリエンテーション時に1年間の予定及びプレFDの説明
1年春入学者6月頃		研究指導を通して学生指導法、教材の作成・活用法の取り扱い。場合により授業見学・ゲストスピーカー、事後指導。教授者として必要なこと。
1年春入学者7月上旬	論文の書き方指導&研究倫理	教材の作成・活用法
1年春入学者7月頃	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
2年秋入学者9月中旬	オリエンテーション時に1年間の	オリエンテーション時に1年間の予

	予定及び研究倫理の概要	定及びプレFDの説明
2 年秋入学者 11 月頃		研究指導を通して学生指導法、教材の作成・活用法の取り扱い。場合により授業見学・ゲストスピーカー、事後指導。教授者として必要なこと。
2 年秋入学者 12 月頃	論文の書き方指導及び研究倫理	教材の作成・活用法
1 年春入学者 2 月中旬	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
2 年秋入学者 2 月中旬	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
3 年春入学者 4 月上旬	オリエンテーション時に 1 年間の予定及び研究倫理の概要	オリエンテーション時に 1 年間の予定及びプレFDの説明
3 年春入学者 6 月頃		研究指導を通して学生指導法、教材の作成・活用法の取り扱い。場合により授業見学・ゲストスピーカー、事後指導。教授者として必要なこと。
3 年春入学者 7 月上旬	論文の書き方指導&研究倫理	教材の作成・活用法
3 年春入学者 7 月頃	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
2 年秋入学者 7 月頃	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
3 年秋入学者 9 月中旬	オリエンテーション時に 1 年間の予定及び研究倫理の概要	オリエンテーション時に 1 年間の予定及びプレFDの説明
3 年春入学者 10 月中旬	博士論文公開発表会	発表会でのプレゼンテーションの実践
3 年秋入学者 11 月頃		研究指導を通して学生指導法、教材の作成・活用法の取り扱い。場合により授業見学・ゲストスピーカー、事後指導。教授者として必要なこと。
3 年秋入学者 12 月頃	論文の書き方指導及び研究倫理	教材の作成・活用法
3 年秋入学者 2 月中旬	大学院研究発表会での発表	発表会でのプレゼンテーションの実践
3 年秋入学者 3 月中旬	博士論文公開発表会	発表会でのプレゼンテーションの実践

4 プレFDの情報提供

大学院設置基準の改正（20190830）により「学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定又は当該機会に関する情報提供の努力義務化」に伴い、研究機関等でのプレFDの情報を提供する。インターネット等でも検索できるが、推奨するものをまとめたので、機会があれば利用及び参加してもらいた。

京都大学のプレFD <http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/about/>

1 大学院生のための教育実践講座

Basic コース [大学院在籍者／初参加者向け]

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/study/program/basic.html>

Advanced コース [OD・ポスドク／本講座参加経験者・大学授業経験者向け]

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/study/program/advanced.html>

2 文学研究科プレFDプロジェクト

1・2年生向けに開講される「哲学基礎文化学系ゼミナール」「基礎現代文化学系ゼミナール」「行動・環境文化学系ゼミナール」

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/literature/>

田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター編『未来の大学教員を育てる-京大文学部プレFDの挑戦-』（勁草書房、2013年）

3 研究科横断型プログラム「大学で教えるということ」

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/crossing/>

4 コンソーシアム京都との連携による文学部単位互換リレー講義

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/literature/consortium/>

動画配信

出口康夫京都大学文学研究科准教授「プレPD」

<https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/center-for-the-promotion-of-excellence-in-higher-jp/05/video04>

東京大学大学総合教育研究センター

東京大学フューチャーファカルティプログラム（大学院生向けプレFD）

<http://www.he.u-tokyo.ac.jp/activities/fd>

東京福祉大学

PD（FD&SD）プレFD・新任教員FD

https://www.tfu.ac.jp/fd/material/pd_prefd.html

東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター

Professional Development Program

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/>

今野文子「大学院生等を対象とした大学教員養成プログラム(プレ FD)の動向と東北大学における取組東北大学 高度教養教育・学生支援機構

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/wp/wpcontent/uploads/2016/08/e1c15abc4fedc1762cbb63bb275ab5fe.pdf#search=%27%E3%83%97%E3%83%ACFD%27>

専門性開発プログラム(Professional Development Program)の動画配信

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/>

小柳和喜「雄米国における Professional Development School の取組動向 —教員養成の高度化に向けた実質化の取組に関する調査研究—」(『奈良教育大学紀要』第 63 巻第 1 号 (人文・社会)、2014 年)

[oyanagi-lab.com/professional%20capital/NUE63_1_157-163.pdf#search=%27%E5%](http://oyanagi-lab.com/professional%20capital/NUE63_1_157-163.pdf#search=%27%E5%B0%82%E9%96%80%E6%80%A7%E9%96%8B%E7%99%BA%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%28Professional+Development+Program%29%E3%81%AE%E5%8B%95%E7%94%BB%E9%85%8D%E4%BF%A1%27)

[B0%82%E9%96%80%E6%80%A7%E9%96%8B%E7%99%BA%E3%83%97%E3%83%AD](http://oyanagi-lab.com/professional%20capital/NUE63_1_157-163.pdf#search=%27%E5%B0%82%E9%96%80%E6%80%A7%E9%96%8B%E7%99%BA%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%28Professional+Development+Program%29%E3%81%AE%E5%8B%95%E7%94%BB%E9%85%8D%E4%BF%A1%27)

[%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%28Professional+Development+Program%29%E3](http://oyanagi-lab.com/professional%20capital/NUE63_1_157-163.pdf#search=%27%E5%B0%82%E9%96%80%E6%80%A7%E9%96%8B%E7%99%BA%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%28Professional+Development+Program%29%E3%81%AE%E5%8B%95%E7%94%BB%E9%85%8D%E4%BF%A1%27)

[%81%AE%E5%8B%95%E7%94%BB%E9%85%8D%E4%BF%A1%27](http://oyanagi-lab.com/professional%20capital/NUE63_1_157-163.pdf#search=%27%E5%B0%82%E9%96%80%E6%80%A7%E9%96%8B%E7%99%BA%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%28Professional+Development+Program%29%E3%81%AE%E5%8B%95%E7%94%BB%E9%85%8D%E4%BF%A1%27)

おわりに

本学の博士後期課程に在学している院生には大別して2つのタイプがある。第1は社会人入学試験により入学者である。こうした院生は職業をすでに持っており、その実務的な内容をさらに高度に高め、職場を通してその研究内容を生かすことで社会への還元を果たしている。こうした院生は大学教員を目指しているわけではない。しかし、職場や専門学会において研究の成果を発表する機会がある。第2は博士前期課程の研究内容をさらに深め、将来、大学教員を目指す院生である。本学では留学生が第2のタイプとなる。

本学の実状とプレFDの趣旨を生かしながら、今後も博士後期課程の院生に対するプレFDについて学内のプログラムの実践と情報提供に努めていきたい。なお、留学生の博士後期課程院生については教育能力開発の一環として学部の日本語の授業での参画などについても視野に入れている。プレFDについてはさらに検討しながら進めていきたい。

研究科長

『武蔵野学院大学大学院プレFDの取り組み』

発行日 2020年3月10日

作成 武蔵野学院大学大学院